

目的 車が住宅街をも走り回る昨今、子供や視覚障害者を交通事故から守る為には、ドライバーから目立ちやすい衣服を身につけている事が安全を得る大切な要素となる。そこで被服地の色の目立ちについて、視環境の照度レベルを昼間の明るいレベルから夜のまっくらなレベルまで変化させて、「目立ち」への影響を検討した。又、色の目立ちは背景の影響も大きいと考え、背景の色の明るさを変化させて検討を行った。

方法 色相、明度、彩度の違う色票12枚を用いて色の目立ちの検討を行った。背景はグレーでバリューが、2、3、4、5、7、9と異なった6種類、照度レベルは水平照度で0.01、0.1、1、10、100、1000の6レベルである。被験者は22才から53才までの5名でいずれも色覚正常者である。実験は照度が精密にコントロールできるメソピック・ルームを製作してその中で行い、実験方法は目立つ色票から順に取り上げていくという選択方法を採用した。

結果 12枚の色票の評価点を極座標にプロットしたところ「色の目立ち」は、視環境の影響を大きく受ける事が明らかとなった。特に照度レベルの影響は色によって大きく異なり、赤系の色はレベルが高いところでは最も目立ったが、低くなると逆に最も目立たない色となった。又背景の明るさによっても目立ちの順位が大きく変化する事も明らかになった。目立ちは、照度レベルや背景の明度によって異なってくるので交通安全を考えると、衣服の着用環境に応じた設計が必要である事が判った。